

ラムサール条約湿地情報票

Information Sheet on Ramsar Wetlands (RIS)

2009-2012 年度版

英語原文http://www.ramsar.org/ris/key_ris_index.htm (条約事務局)

締約国会議の勧告 4.7 (1990 年) によって承認され、決議 VIII.13 (2002 年)、ついで 2005 年の第 9 回締約国会議の決議 IX.1 付属書 B、IX.6、IX.21、IX.22 で修正された分類。

1. 本票記入者の氏名、住所:

環境省中部地方環境事務所野生生物課

愛知県名古屋市中区三の丸 2-5-2

TEL: 052-955-2139

FAX: 052-951-8919

REO-CHUBU@env.go.jp

事務局使用欄

日付 月 年

--	--	--

登録を受けた日

--	--	--	--	--	--	--	--

湿地参照番号

2. 本票記入日、更新日:

2012 年 6 月 14 日

3. 国名:

日本

4. 条約湿地名称:

東海丘陵湧水湿地群

5. 新たな指定か、既存の条約湿地の情報更新か:

本情報票は新規か更新か (どちらかのボックスにチェック (✓) を記入する):

a) 新たな条約湿地の指定

b) 既存の条約湿地の情報更新

6. 更新の場合のみ、登録時あるいは過去の更新時からの変更点:

a) 湿地の区域と面積 (該当する場合のボックスにチェック (✓) を記入する)

指定地の区域も面積も変更は無い:

あるいは

次のように湿地の区域の変更がある:

i) 区域をより精密に引きなおした

ii) 区域を拡大した

iii) 区域を限定した**

かつ/あるいは

次のような面積の変更がある:

- i) 面積をより精密に測定しなおした
- ii) 面積を拡大した
- iii) 面積を縮小した**

****重要：**指定地の区域や面積が限定または縮小される場合は、締約国は決議IX.6で確立された手順に従い、同決議の付属書段落28に指示される報告を、更新された本湿地情報票に先立って提出されていなければならない。

b) 当該湿地の生態学的特徴の変化について、選定基準の適用も含み、前回の湿地情報票以降に主要な変化があれば簡潔に述べる：

7. 湿地の地図の添付：

a) 指定地の地図をその区域を明確に示して次のように添える：（該当する場合のボックスにチェック（✓）を記入する）

- i) 紙媒体（ラムサール条約湿地リストへの登録時、必須）
- ii) 電子媒体（例：JPEG 画像、ArcView 画像）
- iii) GISファイルによる区域のベクトルデータと属性表

b) 区域の線引きに適用した様式を簡潔に述べる：

国定公園の特別地域の範囲を考慮し、集水域で区分した。

本サイトは、6つの小湿地から構成される。これらは、同一の矢作川水系の各々隣接した集水域に属す。

また、これらの小湿地は、近傍の花崗岩上に位置しこれらの小湿地は全てこのような地層の砂礫層などを流れる水が、斜面や崩壊地などに浸みだすことにより成立しており、共通の形成過程を有す。

かつては周辺域に多数の小規模な湧水湿地が存在しており、生育する植物の多くは各々の湿地を局所個体群とし、これら一連の湿地群が一体となり「メタ個体群」を形成していたと考えられる。しかし、周辺の多くの類似の湿地が土地開発等に伴い消滅・劣化した現在、これら6つの小湿地は保存状態が最も良好な湿地群となった。

従って、これらの湿地群は一体として保全が図られており、今回登録される区域は愛知高原国定公園第2種特別区域に指定されている。

8. 緯度経度：

矢並湿地： 東経 137.216366°、北緯 35.083808°
上高湿地： 東経 137.241777°、北緯 35.121228°
恩真寺湿地：東経 137.246025°、北緯 35.117694°

9. 一般的所在地：

日本のほぼ中央部に位置する、愛知県に所在し、県庁所在地である名古屋市（人口約226.6万人、面積約326km²）より約25kmに位置する、豊田市（人口約42.3万人、面積約918.5km²）の市街地より北東約5kmに所在。

10. 海拔：

矢並湿地： 最高.168m；最低.111m
上高湿地： 最高.244m；最低.190m
恩真寺湿地：最高.254m；最低.194m

11. 面積:

矢並湿地: 5.13ha (内訳 西湿地:3.45ha, 東湿地:1.68ha)
上高湿地: 5.45ha (内訳 北湿地:1.31ha, 南東湿地:1.96ha, 南西湿地:2.18ha)
恩真寺湿地: 11.92ha
合計 22.50a

12. 概要:

本件は、本州中央部の標高約 100m～約 300m 程度に位置し湧水に涵養された 6 つの貧栄養性の湿地から構成される。近隣する 3 つの湿地 (上高湿地、恩真寺湿地、矢並湿地) がある。これらは、同一の矢作川水系に各々隣接したこの湿地群は、この生物地理区域でかつてよく見られたる湿地タイプの代表例であるが、土地開発により消滅してきている。

この湿地群は貧栄養性に適応している多様な希少および固有の植物種を支える。この地域が主たる分布地であるため、地域で東海丘陵要素と呼ばれる種を含む。

隣接する周辺の植生は、アカマツやコナラの二次林となっている。

13. ラムサール条約湿地選定基準:

1・2・3・4・5・6・7・8・9

14. 記載項目 13. で選定した基準の根拠:

基準 1

本サイトは、隣接した集水域に属す 6 つの湧水湿地から構成される。同一の矢作川水系に属し中新世から更新世にかけて堆積した「東海層群」に流入する。周辺の多くの類似の湿地が土地開発等の結果、これらの小湿地は保存状態が最も良好な湿地群となり残った。生物地理学的地域区分常緑樹林 (日本)において、代表的な湿地タイプである。この湿地群は現在よい状態で保存され、国の法律で保護されている。 ※基底が「東海層群」と記載されているが「花崗岩」である

基準 3

この湿地はサイトの貧栄養性に適応している多数な希少で固有な植物種を支えるため生物地理区域において重要といえる。(セクション参照) この地域が主たる分布地であるため、地域で東海丘陵要素と呼ばれる種を含む。シラタマホシクサ、ミカワシオガマ、トウカイコモウセンゴケ、ヒメコヌカグサなどを含む。

同時に、ミズギクのように北方系の種やミミカキグサのように熱帯系の種まで、著しい隔離分布を示す多様な種が同所的に集中して生育している。

15. 生物地理学:

a) 生物地理学的地域

2.2.2 常緑樹林 (日本) Japanese Evergreen Forest

b) 生物地理学的地域区分法

Udvardy, M.D.F. (1975), *A classification of the biogeographical provinces of the world*. IUCN.

16. 湿地の物理的特性:

- ・ 地質: 花崗岩基質
- ・ 地形: 山地に囲まれた丘陵
- ・ 土壌タイプ: 花崗岩基質、砂、砂利、非泥炭土 (有機成分、土壌pHは未測定)
- ・ 起源: 天然の湧水起源
- ・ 水文学的特徴: 年間を通して一定以上の湧水があり、降雨時には流入、流出量ともに増加する。
- ・ 水質: pH6.7～7.5 EC3.2～5.8S/m、

- ・ 水深：0.3m（平均）
- ・ 水位変動：ほぼ一定ではあるが、降雨により一時的に増加
- ・ 下流面積：－
- ・ 気候：平均降水量1,666mm、年平均気温15.2℃（気象庁豊田観測局の平均値 2011年）

17. 集水域の物理的特性：

- ・ 表面積：62 ha [87,189m²（矢並）、64,971m²（上高）、119,827m²（恩真寺）]
- ・ 一般的な地質学・地形学的特性：東海丘陵湧水湿地群の周辺の地質としては、山地・丘陵地域に花崗岩と変成岩が広く分布し、平野部の沖積低地には砂、砂礫や粘土、シルトなどの未固結の堆積物が厚く堆積している。
- ・ 一般的な土壌の種類：風化花崗岩土壌
- ・ 一般的な土地利用：森林
- ・ 気候：太平洋岸気候、平均降水量 1,666mm、年平均気温 15.2℃

18. 水文学上の価値：

洪水調節

19. 湿地タイプ

a) 出現度：

海洋沿岸域湿地： A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F ・ G ・ H ・ I ・ J ・ K ・ Zk(a)

内陸湿地： L ・ M ・ N ・ O ・ P ・ Q ・ R ・ Sp ・ Ss ・ **Tp**
Ts ・ U ・ Va ・ Vt ・ W ・ Xf ・ Xp ・ Y ・ Zg ・ Zk(b)

人工湿地： 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ Zk(c)

b) 優占度：Tp

20. 一般的な生態学的特性：

矢並湿地：草本群落（ホシクサ属-コイヌノハナヒゲ群集）が優先している。

上高湿地・恩真寺湿地：草本群落（ホシクサ属-コイヌノハナヒゲ群集）及びシデコブシを中心とする温帯林の両方を有する。

いずれも貧栄養性の湧水湿地となっている。

また、生態系サービスとして、矢並湿地では、一部水田として利用がされ、上高及び恩真寺を含んだ湿地の集水域の森林は薪炭林としての利用がなされていた。

21 特記すべき植物：

この地域に生息する固有種および隔離分布する種

ミカワシオガマ	IUCN：－	環 ^{※1} ：絶滅危惧ⅠB類	県 ^{※2} ：絶滅危惧ⅠB類	※3, 4
ミカワバイケイソウ	IUCN：－	環：絶滅危惧Ⅱ類	県：絶滅危惧ⅠB類	※3
シラタマホシクサ	IUCN：－	環：絶滅危惧Ⅱ類	県：絶滅危惧Ⅱ類	※3
シデコブシ	IUCN：－	環：絶滅危惧Ⅱ類	県：絶滅危惧Ⅱ類	※3, 4
ウンヌケ	IUCN：－	環：絶滅危惧Ⅱ類	県：準絶滅危惧	隔離分布 ^{※3}
ヘビノボラズ	IUCN：－	環：－	県：準絶滅危惧	※3
クロミノニシゴリ	IUCN：－	環：－	県：－	※3

トウカイコモウセンゴケ	IUCN : -	環 : -	県 : -	※3, 4
ヒメコヌカグサ	IUCN : -	環 : 準絶滅危惧	県 : -	※3
ミズギク	IUCN : -	環 : -	県 : 準絶滅危惧	日本固有
ミミカキグサ	IUCN : -	環 : -	県 : -	隔離分布

絶滅危惧種

マルミスブタ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 絶滅危惧 I B 類
ヒメビシ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 絶滅危惧 I B 類
ミコシギク	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 絶滅危惧 I A 類
ミズトンボ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 絶滅危惧 II 類
キキョウ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 準絶滅危惧
トキソウ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 絶滅危惧 I B 類
サギソウ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 絶滅危惧 II 類
アギナシ	IUCN : -	環 : 準絶滅危惧	県 : -
ヤマトキソウ	IUCN : -	環 : -	県 : 絶滅危惧 II 類
ノタヌキモ	IUCN : -	環 : -	県 : 絶滅危惧 II 類

IUCN: IUCN Red List of Threatened species

LC: Least Concerned

※1…環境省版レッドリスト

2…愛知県レッドデータブック

3…東海丘陵要素 (Tokai hilly land element) 東海地方の丘陵、段丘地形に発達している特異な低湿地を中心として生育する固有、準固有または隔離分布する分類群

4…東海地方に固有な種

22. 特記すべき動物:

(ほ乳類)			
カヤネズミ	IUCN : -	環 ^{※1} : -	県 ^{※2} : 絶滅危惧 II 類
(鳥類)			
サンショウクイ	IUCN : LC	環 : 絶滅危惧 II 類	県 : 準絶滅危惧
ツツドリ	IUCN : -	環 : -	県 : 準絶滅危惧
(両生類)			
アカハライモリ	IUCN : -	環 : -	県 : 情報不足
ヤマアカガエル	IUCN : -	環 : -	県 : 情報不足
(魚類)			
ホトケドジョウ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 IB 類	県 : 絶滅危惧 II 類
(昆虫類)			
ヨコミゾドロムシ	IUCN : -	環 : 絶滅危惧 I 類	県 : 準絶滅危惧
コオイムシ	IUCN : -	環 : 準絶滅危惧	県 : -
ヒメタイコウチ	IUCN : -	環 : -	県 : 準絶滅危惧
オオアメンボ	IUCN : -	環 : -	県 : 準絶滅危惧

IUCN: IUCN Red List of Threatened species

LC: Least Concerned

- ※1…環境省版レッドリスト
- 2…愛知県レッドデータブック

23. 社会的、文化的価値：

- a) 湿地の持つ社会的、文化的価値の一般を述べる。例えば、漁業生産、林業、信仰上の重要性、考古学的重要地、湿地との社会的関係など。歴史的、考古学的、宗教上の意味と現行の社会的経済価値とは区別すること。

集水域に含まれる森林は、かつて薪炭林として利用され、里山の人の生活を支えた。また、このような人為的活動により、森林の遷移を留め、水源かん養林として効果を高め、湿地の存続や保護を図ってきた。また、湿地には貯水の機能があり、その貯水機能は下流部で行われる農業（特に水田稲作）を支える。更に、日本の原風景である美しい里山景観や祭りなどの地域文化を支える価値がある機能となる。

- b) 適切な生態学的な価値に加え、物質的なものか否かに関わらず、湿地の起源やその保全など生態学的な機能に結びつく重要な文化的価値の例を有することによって、国際的に重要であると考えられるか？考えられる場合はこのボックス口チェック（）を記入し、以下の範疇で該当する一以上のものについて当該湿地の重要性を記述する：

（チェックなし）

- i) 湿地の生態学的特徴を維持するような伝統的な湿地の管理及び利用の知識と方法の適用が実証されており、湿地の賢明な利用のモデルとなる湿地：

- ii) 過去の文明が湿地の生態学的特徴に影響を及ぼしてきた、類をみない文化的伝統あるいは記録を有する湿地：

- iii) 湿地の生態学的特徴が、地域住民及び先住民との相互作用に依存している湿地：

- iv) 聖なる場所といった非物質的な価値が存在し、その存在が湿地の生態学的特徴の維持に強く結びついている湿地：

24. 土地保有権、所有権：

- (a) 湿地：
公有地（豊田市）：5.13 ha、私有地：17.37 ha

- (b) 周辺地域：
私有地

25. 現在の土地（及び水）利用：

- (a) 湿地：
環境学習、レクリエーション、史跡の一部

- (b) 周辺地域、集水域：
森林、農林業、住宅地

26. 土地利用（水利用も含む）の変更、開発計画等、湿地の生態学的特徴に悪影響を及ぼす要因（過去、現在、将来）：

- (a) 湿地：

(過去)

水田をしての利用もされていたが、近年では放棄去れ、持続的な維持管理がなされていなかった。

(現在)

現在は水田が放棄されているが、市により土地取得等がなされ、市民との協働により管理を進めており、悪影響を及ぼす要因は特にない。

(将来)

今後ラムサール条約湿地として登録されることにより、地方行政の支援により恒常的なワイズユースが図られるよう設備整備などが行われる予定であり、悪影響を及ぼす影響は特にない。

(b) 湿地周辺地域：

(過去)

湿地周辺は、水田や薪炭林としての持続的利用がなされていたが、近年では一部管理がなされず、竹林などが繁茂していた。

(現在)

水田、山林として利用・管理されている部分以外では、地元住民による保全管理が行われており、悪影響を及ぼす影響はない。

(将来)

現在に引き続き、水田、山林としての持続的利用がなされる予定で、特に悪影響を及ぼす影響は無い。

27. 実施されている保全策：

(a) 条約湿地との区域の関係を含めて、国レベルならびに国際レベルでの保護区の種類と法的地位を記す

- ・ 国定公園第2種特別地域 (自然公園法)

(b) 該当する IUCN 保護地域カテゴリー (IUCN 1994) を記す (以下で該当するもののボックスにチェック (☑) を記入する)：

Ia ☐; Ib ☐; II ☐; III ☐; IV ☑; V ☐; VI ☐

(c) 承認され管理計画の有無とその実施の有無：

- ・ 東海丘陵湧水湿地群 (矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地など) 保全計画を平成 23 年 3 月に策定、同年 4 月から実施

d) その他の現在の管理手法を記述する：

- ・ 豊田市及び地元湿地保全団体及び地元住民による協働による維持管理作業 (乾燥化防止のための灌木の除去や施設 (歩道) の点検など)

28. 実施に移されていない保全策案：

なし

29. 科学的研究及び施設の現状：

(科学的研究)

なし

(研究目的で設立された施設)

なし

30. 現在の広報・教育・普及啓発（CEPA）活動：

- ・ 豊田市により自然観察の森（観察小屋、自然観察歩道、ネイチャーセンター等）を整備し、CEPA 活動を実施している。

31. レクリエーション、観光の現状：

- ・ 矢並湿地：年2回一般公開（平成23年度は秋期に一回実施（3日間）：参加者総数 1,034名 近隣施設よりシャトルバスで参加者を案内、地域の保全団体によるガイド付き）

32. 管轄：

（領土上の管轄）

豊田市

（機能上の管轄）

環境省（国定公園 第2種特別区域）

愛知県（国定公園 第2種特別区域）

33. 管理当局：

環境省 中部地方環境事務所 野生生物課

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2

TEL: 052-955-2139

FAX: 052-951-8919

REO-CHUBU@env.go.jp

34. 参考文献：

- ・ 植田邦彦, 1990, シデコブシのたどった道, プランタ 7:77-81.
 - ・ 植田邦彦, 1994, 植物の自然史, pp3-8, 北海道大学図書刊行会, 札幌
 - ・ Iwatsuki Kunio, David E. Boufford & Ohba Hideaki (Eds.), 2006. Flora of Japan Volume II a 44-55, Kodansha LTD.,
 - ・ 豊田市, 2010 (挿入要), 東海丘陵湧水湿地群 (矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地など) 保全計画
 - ・ 植田邦彦, 1989, 東海丘陵要素の植物地理 : I. 定義
 - ・ Fujiwara (1979) Moor vegetation in Japan with special emphasis on Eriocaulo-Rhynchosporion fujiianae. Vegetation und Landschaft Japans. Bull. Yokohama Phytosoc. 16, 325-332, 1979
 - ・ 瀬沼 (1998) 美濃-三河地域の低湿地植生
 - ・ 富田啓介, 2012, 湧水湿地をめぐる人と自然の関係史 - 愛知県矢並湿地の事例 -, 地理学評論 85 : 85-105.
 - ・ 気象庁気象統計情報 (愛知豊田)
- (http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/annually_a.php?prec_no=51&prec_ch=%E6%84%9B%E7%9F%A5%E7%9C%8C&block_no=0464&block_ch=%E8%B1%8A%E7%94%B0&year=2009&month=&day=&elm=annually&view=)